



新聞で  
読解力アップ!

ワークシート

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

## コンブ 過去2番目の不漁

本年度の道内コンブ水揚げ量が1万3019トと、過去最低だった昨年度に続き、2番目の悪さになる見通しであることが2日、道漁連の調べで分かった。ウニによる食害のほか、人手不足で出漁を控えていることなどが原因とみられる。

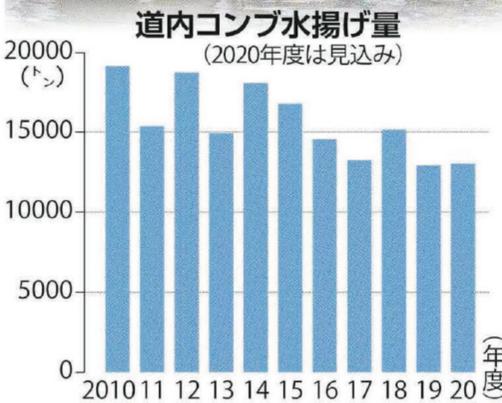
8月末に道漁連が各漁協から聞き取り調査した。統計が残る1962年度以降で最低だった昨年度は1万2921ト。本年度はそれを98ト上回る見込みで、ピークだった約50年前の約3万トの半分以下になっている。

管内別で水揚げ量の多い順に過去10年間の平均と比べると、渡島は22・4%減の4105ト、釧路は21・1%減の3052ト、日高は3・9%減の2800ト、根室

は25%減の2070トと主産地は軒並み平均を下回った。全体では18・1%減だった。

約50年間マコンブ漁を続ける函館市の漁業者川井靖之さん(66)は今年、減少する資源を守るため出漁しなかった。川井さんは「天然ものは深刻な資源不足の状況が続いており、これからどうなるのだろうか」と不安を漏らす。

コンブ研究第一人者の北大大学院水産科学研究院の安井肇名誉教授は、不漁の原因は各地で異なる」と指摘する。道南では夏の高水温やウニによる食害で資源不足となっているのに対し、太平洋側では



天候不順に加え、コンブの洗浄や乾燥の作業に携わる人手不足が影響し、出漁回数が減っているとみられる。安井名誉教授は「海洋環境は悪くない。ウニの駆除や作業の機械化など対策を取り続けられれば、水揚げ量が回復する可能性はある」

(麻植文佳)

## 道漁連見通し ウニ食害、人手不足影響か

『北海道新聞』2020年9月3日(木) 朝刊

(1) コンブの不漁の原因は地域によって異なります。地域と原因の組み合わせを、下の表にまとめなさい。

	地域	原因
①		
②		

(2) 水揚げ量を回復させるための対策として、記事中ではどのような方法が紹介されていますか。(1)の①、②の原因に対応させて、それぞれ答えなさい。

①

\_\_\_\_\_

②

\_\_\_\_\_